

大津町議会 文教厚生常任委員会行政調査

氏名 豊瀬 和久

視察研修名：大津町議会文教厚生常任委員会行政調査

視 察 先：佐賀県基山町、福岡県久留米市、長崎県長与町、佐賀県武雄市

期 日：令和6年7月29日（月）～30日（火）

研修テーマ：基山町「基山っこみらい館の取組について」

久留米市「学校給食共同調理場の整備及び運営の状況について」

長与町「部活動の地域移行の取組について」

武雄市「武雄市図書館見学」

研修報告 意見・感想

文教厚生常任委員会では、令和6年7月29日（月）から7月30日（火）までの2日間、佐賀県基山町、福岡県久留米市、長崎県長与町、佐賀県武雄市において委員5名、職員2名で視察研修を行いました。

まず、29日（月）午前中に佐賀県基山町における基山っこみらい館の取組について基山町役場でこども課の課長、こども課みらい館係長、こども課保育園長より詳しい説明を受けながら質疑応答を行い、その後基山っこみらい館を訪問し館内を見学しながら説明と質疑応答を行いました。

基山町保育所整備基本計画の施設整備については、新しい公立保育所を充実させるためには、子育て関連施設との連携が不可欠として、子育て関連施設として子育て世代が集う子育て交流広場を設置し、新しい公立保育所と合わせて基山っこみらい館を整備するとされています。

建設場所については、今後のニーズ、機能を考えて役場に隣接した用地に建設することとされています。

整備にあたっては、基山町版ハローワークと連携した子育て就労支援施設として地方創生に寄与することから、地方創生拠点整備交付金事業の採択を受け、約8億円の事業費のうち約3億円のこうふきんを活用されていました。

実際に館内を見学した感想は、広い敷地の平屋の建物で、子育て交流広場と保育園ともに、シンプルな動線で機能的に作られていると感じました。

「個々の発達を助長し、豊かな人間性を持った子どもを育てる」との保育方針のもと様々な体験を通して、心と体を育てるとの理念のもと、基山っこみらい館には、公立保育園と子育て交流広場が併設されており、就業支援施設も設置されています。

そこには、子育てコンサルジュ、子育て支援ネットワークコーディネーター、ファミリーサポートセンターのアドバイザーなど子どもたちがのびのび育つように、みんなで応援するサポート体制が構築されていて羨ましく感じました。

また、この視察研修には、子育て支援課長、入園係、都市計画課建築係長も同席して視察研修を受けるなど現在計画されている本町における町立子ども園の建設においても参考となる視察研修でした。

29日（月）午後からは、久留米市の中高等学校給食共同調理場でPFI方式で運営されている学校給食共同調理場の整備及び運営の状況について視察研修を行いました。

はじめに、調理場を見学しながら説明を受けた後、久留米市のPFIを活用した整備やその後の運営等について、センター長からの説明を受けました。

久留米市中央学校給食共同調理場の運営状況は、中学校14校の7,028人に提供しており、給食センター事業を民間の資金と経営能力・技術力を活用し、公共施設等の設計・建設・維持管理・調理業務・配送までを包括的に行う公共事業の手法であるPFI方式を導入していますが、その判断として、総合計画に位置付けられていること。適当な事業規模があること（施設設備費が10億円超）。民間に任せられるサービスであることを基本的事項として、具体的事項としては、民間の技術力が活用できる。トータルコストの縮減が見込まれる。長期的、安定的に事業が継続できる。PFIの先行事例が多い。維持管理や運営のウエイトが高いことなどについて検討されています。

久留米市と事業者の役割分担としては、久留米市が献立作成、食材調達、検収、広報、給食費の徴収、配膳、食数調整等で、民間事業者が、施設の設計、建設、維持管理、調理業務、配送等を行っています。

また、この視察研修には、学校教育課長、学校給食センター長も同席して視察研修を受けました。

◇現在、本町でもセンター型式で給食を提供していますが、町の人口が増加していることやセンターの老朽化等により、将来的に建て直しなども検討する必要性が出てきています。

◇整備にあたり、先進事例として非常に参考になる視察研修でした。

30日（火）午前中には、長崎県長与町で部活動の地域移行の取組について視察研修を行いました。

所管課より部活動から地域スポーツ活動への段階的な移行、地域スポーツ活動に至るまでの合意形成等プロセス、地域スポーツ活動の実施に向けた取組、地域スポーツ活動の概要等についての説明を受けたあと、質疑応答を行いました。

大会参加に関する方針、地域スポーツ活動の実施に対する諸課題、スポーツ活動を委託している長与スポーツクラブについて、指導者確保と指導者の質の向上について、活動に関する財源について、地域スポーツ活動の今後の方向性などについての質疑に対して、リーダーシップを発揮して地域移行を推進してこられた教育長自らが長与町の状況について丁寧に説明をしていただきました。

長与町の部活動の地域移行に関しては、教員の働き方改革が目的ではなく、生徒たちが生涯にわたってスポーツに親しむ環境づくりが目的だと言われていたことが印象的でした。

部活動の地域移行の取組みについては、全国的な課題であり、一朝一夕に解決できる問題ではありませんが、長与町では、地域移行推進計画に基づいて、円滑な移行に向けた体制を整備するなど着実に推進されています。

長与町が地域移行に先行しているのは、教育長自らが部活動に携わってこられた経験や体験をもとに推進されている結果だと思いました。本町においても地域移行推進計画に基づいて合同で練習するなど施工的な取り組みを行っている状況

です。長与町など先行事例などの取組みを参考にして令和８年度からの完全移行に向けて着実に推進していかなければならないと思います。

３０日（月）午後からは、佐賀県武雄市図書館を見学させていただきました。

２０１３年にリニューアルオープンした武雄市図書館・歴史資料館では、資料収蔵や図書貸出の場といたった従来の図書館増に止まらず、図書館・書店・カフェが一体的に併設されることで、コーヒーを味わいながら館内の本を自由に読むことができ、勉強も仕事も会話もできるなど、様々なライフスタイルで市民にとって居心地の良い場と新たなコミュニティの場となっています。

また、それは官と民が連携することで実現しています。本町にも、武雄市図書館のような町民の憩いの場・学びの場が必要ではないかと思いました。